

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2775004837
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム東大阪加納
所在地	大阪府東大阪市加納1-4-35 (電話) 072-960-1320

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月23日	評価確定日	平成21年5月26日

【情報提供票より】(平成21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000 円	その他の経費(月額)	実費精算 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1050 円

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	孫クリニック
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全国に数多くのグループホームを運営するメディカル・ケア・サービス株式会社を母体に持ち、法人として地域密着型事業所の理念が明確になっており、教育体制が整えられ、運営が組織的に行われています。東大阪市JR住道駅から少し離れた閑静な住宅街に位置し、広く明るいホーム内では利用者が個々のペースに合わせて過ごすことができるように支援しています。利用者一人ひとりの思いを反映した介護計画を立て、日々の気づきや変化について気を配り、具体的な支援に繋がるように取り組んでいます。生活歴を活かして、畑仕事や刺繍、ゴルフ等趣味の支援や、定期的な家族アンケートや家族会等も行い家族との関わりも大切にしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の後、個々の利用者の暮らしぶりを毎月手紙にして伝える取り組みを行ったり、地域との交流に取り組み始めました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が現場の状況を見たり、一部の項目は職員から意見を聞きまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や地域包括支援センター職員、近隣の施設のケアマネージャー等の参加のある運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。ホームのサービスの状況や今後の体制についての報告を始め、家族交流会についてや往診医について等の意見交換を行ないサービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム入り口に意見箱を設けたり、家族会を開催しています。直接来訪時に意見や要望を聞くことが多く、速やかに説明や対応するよう努めています。家族会はホームで昼食を摂ってもらい、話しやすい雰囲気を作りながら3ヶ月に1回のペースで続けていきたいと考えています。法人として年に1回家族アンケートを行ない、その結果を受けてサービスの改善につなげています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し回覧板を回してもらい、地域の祭りを見に行ったり音楽会に行くなどの交流があります。また、家族の紹介で地域のボランティアに来てもらうこともありました。今後、幼稚園や小学校との交流やホームの行事、運営推進委員会の参加など積極的に交流をしていきたいと考えています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	多くのグループホームを運営している法人が掲げている地域密着型サービスとしての理念があり、その理念に添ったケアが行えるよう、ホームとしての目標を掲げています。法人からの様々な助言や指導があり、その中からホームの職員で話し合い目標が考えられました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念とホームの目標をホームの玄関に掲示し、毎朝唱和しています。理念の中にあるように、その人らしさを考えモニタリングを行なうよう取り組んだり、常に前向きな姿勢で目標を実行できるように、職員全員が取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板を回してもらい、地域の祭りを見に行ったり音楽会に行くなどの交流があります。また、家族の紹介で地域のボランティアに来てもらうこともありました。地域の住人がホームに来てもらう機会が少なく、今後幼稚園や小学校との交流やホームの行事、運営推進委員会の参加など積極的に交流をしていきたいと考えています。	○	地域の住人にもホームのことを知ってもらい、地域の一員として交流が図れるような取り組みを期待します。自治会や老人会にも知ってもらえるよう働きかけをしたり、幼稚園や小学校との交流の実現等、積極的に取り組んでいくことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が現場の状況を見たり、一部の項目は職員から意見を聞きまとめました。前回の評価の後、個々の利用者の暮らしぶりを毎月手紙にして伝える取り組みを行ったり、地域との交流に取り組み始めました。	○	自己評価及び外部評価を職員全員で取り組むことで、評価を活かした取り組みが具体的になるのではないのでしょうか。自己評価を職員全員で取り組み、評価の結果話し合いを持ち、具体的な取り組みになることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域包括支援センター職員、近隣の施設のケアマネージャー等の参加のある運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。ホームのサービスの状況や今後の体制についての報告を始め、家族交流会についてや往診医について等の意見交換を行ないサービスの向上に活かしています。自治会や民生委員等の地域の住人の参加がなく、地域への働きかけが困難な状況です。	○	運営推進会議には、地域の住人の代表となる人の参加が求められます。多忙な状況等の理由はありますが、民生委員や自治会長、老人会会長などの地域の状況に詳しい人の参加ができるような働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を直接持っていったり、必要な報告事項があるとき等に市役所に出向き、記録内容の変更や法改正等に伴う相談し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとのホームの季刊誌を発行したり、家族の来訪時に直接話をする他に、日々の様子を書いた手紙と写真を、毎月請求書と共に郵送しています。また、金銭管理については、毎月出納帳とレシートを一緒に郵送し、確認印をもらい返信してもらっています。月々の様子は、暮らしや健康状態等に分けた便りを作成し、よりわかりやすくしたいと考えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に意見箱を設けたり、家族会を開催しています。直接来訪時に意見や要望を聞くことが多く、速やかに説明や対応するよう努めています。家族会はホームで昼食を摂ってもらい、話しやすい雰囲気を作りながら3ヶ月に1回のペースで続けていきたいと考えています。法人として年に1回家族アンケートを行ない、その結果を受けてサービスの改善につなげています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は長く勤めてもらえるように、職員を育てることに力を入れています。また、やむを得ず異動や退職があり、職員が交代する場合は、新しい職員が利用者や馴染みの関係が築きやすいように配慮し、一人ひとりとコミュニケーションを多くとれるよう、1ヶ月は夜勤に入らずにより深く関わることに努めてもらっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修が新人から管理者まで体系的に行われています。新人の職員には入職当初に1週間の集中した研修と6カ月後のフォロー研修があります。また、市が開催する外部研修等に出勤扱いで参加したり、資格取得のための補助があったり、法人としての支援があります。研修参加後は資料と報告書を回覧したり伝達研修をして職員全員に周知しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等のネットワークには加入しておらず、同業者との交流は少ない状況ですが、法人の近隣のグループホームとの交流から始めています。	○	近隣にはグループホームが数件あり、交流しやすい環境にあります。近隣のグループホームとの交流やグループホーム協議会等のネットワークに加入し、相互訪問等の取り組みに繋がっていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の居宅を訪問し入居前の生活についてを知り環境を調整したり、何度か見学や日中の体験してもらい馴染みやすいように配慮しています。入居後も家族と密に連絡をとりながら、生活しやすい環境作りに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることをできる環境作りを心がけ、職員と利用者が一緒に掃除や洗濯干しなどを行い、支え合いながら共に過ごすことができるよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから利用者の思いをくみ取り、アセスメントを行っており、カンファレンスで職員の意見を出し合いながら利用者本位に検討し、意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者や管理者が家族やかかりつけ医からの情報を得て、担当者会議を行い話し合った上で介護計画を作成しています。個々の希望に沿った日課を支えるために具体的な援助の方法を考え作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期目標を6ヶ月、短期目標を3ヶ月に設定し、見直しの時期に合わせてカンファレンスを行っています。アセスメントは1年ごとに更新しています。日々の記録が介護計画を反映したものになるよう工夫し、1週間ごとに利用者のADL状況や介護計画の実施状況についてのモニタリングを行い、常に現状に合った介護計画であるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診に家族と共に同行し日常の状況を主治医に情報提供したり、行ける範囲での行き付けの美容院の送迎など、希望にあわせてできる範囲での支援をしています。また、利用者と一緒に昼食が摂れるよう家族の分の食事を準備したり、希望時に買い物に行ったり柔軟な支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にできる限り以前からのかかりつけ医を継続してもらえるように話をしています。提携のクリニックからは毎週ホームを往診してもらい、利用者は2週間に1度診察を受けることができるような体制をとっています。職員に看護師を配置し、歯科衛生士の資格を持つ職員もおり、日ごろの健康管理を行っています。週に1度の訪問歯科も受けています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における医療体制の指針を書面化し、入居時に説明し同意を得ています。実際に重度化がみられた場合には、その都度その状況に合わせ家族や医師、職員と話し合いながら対応を決めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	土地の言葉を使ったり、親しみやすい言葉使いを心がけています。馴れ馴れしくなり過ぎたときには、その都度注意をしたり、日ごろから接遇については指導しています。また、個人情報は常に鍵のかけられている事務所内の書庫に保管しており、個人情報の取扱いを定め、職員に周知しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間を決めずに、個々の利用者のペースで生活できるように支援しています。全介助の利用者にも毎回その都度声をかけ、意思表示ができるように支援し意思を尊重し一日を過ごしてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理のできる利用者はいませんが、味見をしたり配膳や後片付けを一緒に行っています。また、4人ずつの家庭的な食卓で利用者と職員と一緒に同じ食事を食べながら、会話を楽しんだりさりげなくサポートしています。ホームの畑で取れた野菜が食卓に上がる事もあり、楽しみなものとなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日昼食後から16時くらいの間に入浴できるように準備し、利用者は週3回入ることができるように支援しています。希望があれば、毎日入浴することも可能であり、夕食後の入浴も検討したいと考えています。拒否のある利用者には、声のかけ方や時間を変えながら、本人のタイミングで入れるよう工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や洗濯干しなどの日常生活の中で役割を持っている利用者や趣味でカラオケや刺繍、庭でゴルフの素振りなどを楽しんでいる利用者があり、個々の楽しみごとができるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1度は買い物に出かけたり、近くの神社や公園に散歩に出かけられるよう支援しています。出かけられない日は庭やテラスなど外に出て過ごしたり、ホームの中だけの生活にならないように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に2回の離設と施設周辺の道路の車の交通量が多く、利用者の家族や警察からも鍵をかけるよう言われ、安全のため鍵をかけています。玄関及び各ユニット、2階のベランダ、事務所等鍵をかけています。ホームとしては、少しずつ鍵をかけない時間を作っていくと考えています。	○	鍵をかけることの弊害をもう一度考え、職員の体制の整っている時間帯や開錠できる箇所はないか等鍵をかけないケアについて話し合ってみてはいかがでしょうか。見守りやセンサーの設置等の検討をし、家族の理解も得ることができそうな取り組みを期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を行っています。昼夜想定を変えての避難訓練や消防署から訓練用の消火器を用いて消火訓練を行っています。地域の人々の協力を得られるような働きかけはまだ行えていません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスが整えられたメニューを作成し、そのメニューを基に旬の食材に変えたりしながら提供しています。食事量や水分量はチェックし記録に残し把握しています。嚥下や咀嚼機能、健康状態に合わせて粥や刻み食などの対応をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングからは庭の畑や季節のディスプレイが飾られたり、家庭的な家具を配置し我が家のように居心地良く過ごすことができるように配慮しています。台所から食事の臭いがリビングにも伝わってくる温かみのある空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等を持ち込んでもらえるように説明しています。利用者によって家具の少ない居室もありますが、テレビや仏壇等を持ってきたり、畳を敷いている利用者もいます。扉があるとトイレが解らなくなる利用者には、扉を外し長い暖簾を使用し、生活しやすいように工夫をしています。		